

エジプト・アラブ共和国における保育園の現状： 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて

The Current Situation of Nurseries after the COVID-19 in Arab Republic of Egypt

川村幹*, 神谷哲郎**

Miki KAWAMURA, Tetsuo KAMITANI

* JICA 就学前教育・保育の質向上プロジェクトスタッフ

** JICA 就学前教育・保育の質向上プロジェクトチーフアドバイザー

要旨

2020年3月以降、エジプトでは新型コロナウイルス感染拡大のロックダウンに伴い、多くの保育園が休園したり、子どもが家で過ごす時間が増えたりなど、子どもを取り巻く環境が大きく変化した。

今回のロックダウンを経て、保育園の現状を知るために、保育士にアンケート調査を行った。その結果、保育園の職員数、在園児数の減少だけでなく、子どもの学習や社会性などの能力の低下が見受けられることが分かった。

キーワード：新型コロナウイルス、就学前教育・保育、遊びを通した学び

1. 背景と目的

エジプト・アラブ共和国（以下：エジプト）では、2017年6月から2021年10月末までの期間、国際協力機構（以下：JICA）の技術協力案件「就学前教育・保育の質向上プロジェクト（以下 JICA プロジェクト）」が実施された。それまで座学を活動の中心としてきた保育園に、子どもが主体的に活動する「遊びを通した学び」を導入することで、保育の質の向上を目指すものである（JICA, n.d.）。

2020年3月、エジプトでは新型コロナウイルスの感染拡大によるロックダウンにともない、多くの保育園は休園となった。プロジェクトに従事する専門家は日本へ帰国し、同年11月までは現地での活動ができなかった。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴うロックダウンで、保育園に通う子どもたちとその家族も大きく影響を受けている。ユニセフの調査（UNICEF, 2020）では、ロックダウンの影響として、子どもたちの精神不安や寝つきの悪さ、保護者からの虐待などの数が増え、家庭の経済状況の変化により、食費を抑えざるをえないなどの影響が出ているという結果が出ている。エジプ

トの社会連帯省（Ministry of social solidarity）は保育園の再開のために、保育園における検温・手洗・消毒の徹底、社会的距離の確保・換気環境の整備など15の基準項目を示した。JICA プロジェクトは、コロナ環境下での保育園再開に資する支援として、保育園（300園）に対し、消毒液、マスク、扇風機などの物資の供与を行い、併せて保健分野の支援を全国で展開する赤新月社、アレキサンドリア大学と協力し保育士向けに感染予防に関する講習会を実施した（Egypt Today, 2021）。

新型コロナウイルスの感染拡大により、上述のように、エジプトの保育園における子どもたちの環境や活動に大きく変化があったことが推測される。現在の保育園の現状を把握し、今後の協力の在り方を検討するために、保育士に対するアンケート調査を行った。

2. 調査期間・方法

2021年6月に対象県を訪問し、保育士へアンケート調査を実施した。質問項目は、保育園の全般の状況（休園期間、子ども及び保育士の人数）、遊びの活動の変化（減った活動・増えた活動）、子どもたちの変化と、

大きく分けて3つの項目で構成されている。回答は複数選択と各園の状況等について記述式の2種類である。また、ポートサイドとスエズの保育園を訪問し3名の保育士へインタビューを行った。

3. 調査対象者

質問票はエジプト国内、8県 (Quliyubia, Suez, Alexandria, Portside, Giza, Cairo, Gharbeya, Ismailia), 91名の保育関係者に配布された。対象の保育園は社会連帯省に認可されたNGO保育園である。回答者は25%が園長などのマネージャー、64%が保育士、7%がナニー¹、4%がその他職員である(表1)。

表1. 回答者内訳

| | Quliyubia | Suez | Alexandria | Portside | Giza | Cairo | Gharbeya | Ismailia | 合計 | % |
|-----|-----------|------|------------|----------|------|-------|----------|----------|----|-----|
| 管理職 | 5 | 2 | 0 | 0 | 2 | 5 | 2 | 7 | 23 | 25% |
| 保育士 | 3 | 10 | 15 | 9 | 4 | 8 | 7 | 2 | 58 | 64% |
| ナニー | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 6 | 7% |
| その他 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 | 4% |
| 合計 | 8 | 12 | 16 | 11 | 9 | 17 | 9 | 9 | 91 | |

4. 結果

アンケートの回答結果を、保育園の状況、保育園での活動の変化、子どもの変化と3つの項目にわけ、以下の通り示す。

4.1. 保育園状況について

休園期間

回答した保育園のうち88%はパンデミックにより保育園は休園になったと回答した(図1)。そのうち6~8か月休園した保育園が52%である。次いで25%は3~5か月の休園期間であった(図2)。保育園の休園の決定は保育園を運営するNGOの判断によるものが多い。開園をするために、先述の社会連帯省が示す基準を満たす必要があるが、利用料が減る中、環境整備に必要な資金・人件費の確保が難しく、また、保育士が子どもたちに向き合うための適切な衛生知識をもつこと、保護者から保育園の実施する感染症対策について理解を得ることに時間がかかったことがうかがえる。

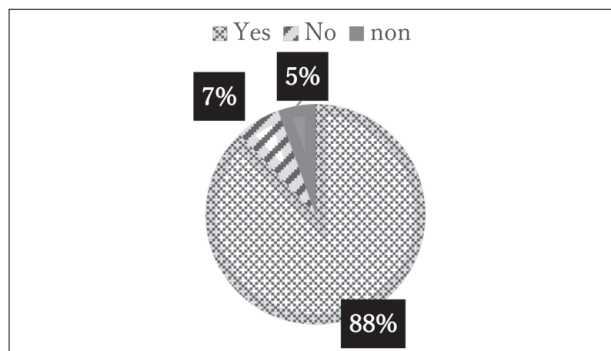


図1. 休園の有無

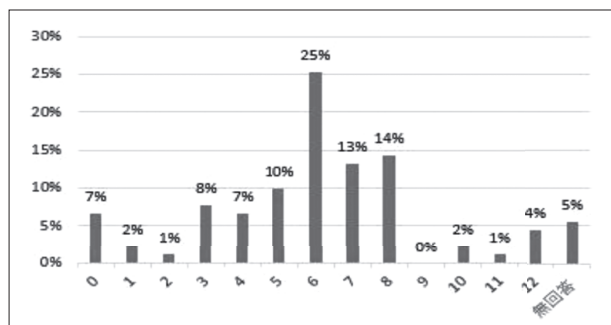


図2. 休園期間(ヶ月)

保育士人数の変化

保育士の数は各保育園の休園前後の在勤保育士人数の平均をそれぞれ比較した。首都であるCairoを除いて、全体的に保育士の数は減少している(図3)。このことから、各県で保育関係者が保育園での仕事を失っていることが伺われる。この、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けてエジプト全体での失業率は、保育業界にかかわらず、男性より女性のほうが高いことがわかっている(UNICEF, 2020)。

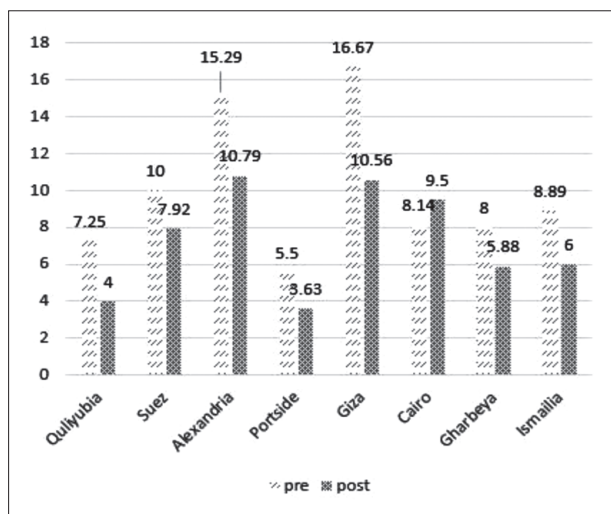


図3. 保育士数の変化(各県平均)

¹ エジプトの保育園には、園長、保育士とまた、ナニーと呼ばれる子どもの排せつや睡眠など、生活の支援を行うスタッフがいる。

在園児数の変化

社会連帯省は、保育園の再開の基準として、園に通う保育園児を50%に減らし、十分な社会的距離をとることができる環境整備を行うよう示している。そのため、子どもの人数はどの県も半数以下に減っている(図4)。

保育園が再開しても感染を心配し、子どもたちを登園させない家庭も多いことがインタビューで明らかになった。その場合、子どもたちは、親戚や兄弟と過ごすことが多いようだ。

保育士の数も減っていることから、子どもを一部屋に集めて活動している様子も見受けられたが、保育室内で、マスクの着用、間隔を開けての着席、換気などの配慮をしていることが現地調査時に見て取れた。

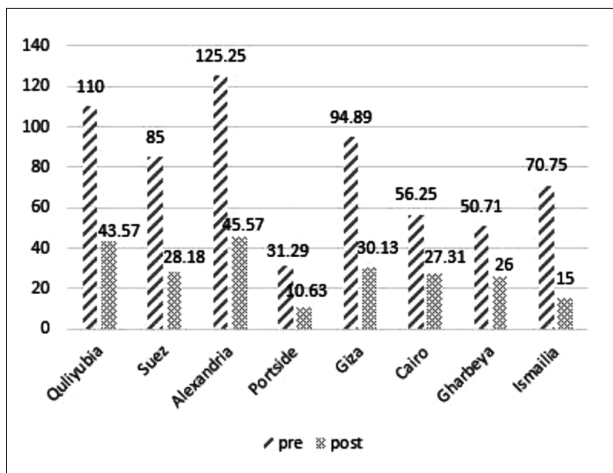


図4. 在園児数の変化(各県平均)

保育園での感染予防に関する啓発方法

保育園では、JICAで実施された研修などを参考に、子どもたちや保護者向けに感染予防の啓発を行っている。啓発方法として最も多かったのは、保育士から子どもへの声掛けである(図5)。この「声掛け」とは、活動中や活動の切り替え時に子ども同士の距離や手洗について注意を促すことである。声掛けのほかに、子ども向けにはパペットや絵本、読み聞かせなど様々な取り組みを行っているが、子どもに伝わりやすく、理解できるような工夫をしていた。保育園のなかには、ウイルスを模した人形や絵本を即席で作成している園もあった。

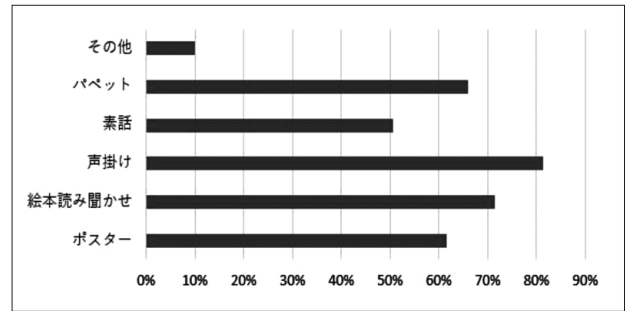


図5. 感染予防に関する啓発方法(複数選択)

4.2. 保育園での活動の変化

減った活動

感染予防のために減った活動に関する記述回答から、集団で行うゲームを取り入れなくなった園が多いことが分かった(図6)。配慮事項として子ども同士の距離を保つことが社会連帯省から示されていることによる。また、洗浄できない素材である粘土や布で作られた玩具の使用が減っている。紙を使った遊びが可能である園と、紙(紙箱などの廃材含む)は洗えないので使用不可としている園があり、地域や園の考え方によって、使用できる素材の可否判断は様々である。

プロジェクトで積極的に導入をはかった砂遊び、コーナー遊びに関しては以下の状況である。まず、砂遊びは、砂でほこりを吸って咳が出ることが、感染症の症状との見分けができないこと、砂場遊びの玩具を子ども同士で共有する場面があることを理由に、使用が減っている。また、コーナー遊びは、一度に遊べる子どもの人数を調節したり、遊びの内容を一人でできる遊びに限定したりするなどの工夫をして実施している。

増えた活動

子どもを集めて行う絵本の読み聞かせやパペットシアターが増え、なかでも感染予防に関する内容の遊びが増えたようだ(図7)。保育士一人で多くの子どもを一度に見ることができ、また子ども同士が関わらずにできる活動であることから選ばれている。また洗浄が容易なプラスチックの玩具は使用されているほか、密にならない外遊び、個人で行う塗り絵などの描画活動が増えていた。少人数や個人でできる遊びを行うなどの配慮や、家庭から個人の玩具を持って登園するなどといった対策も取られていた。

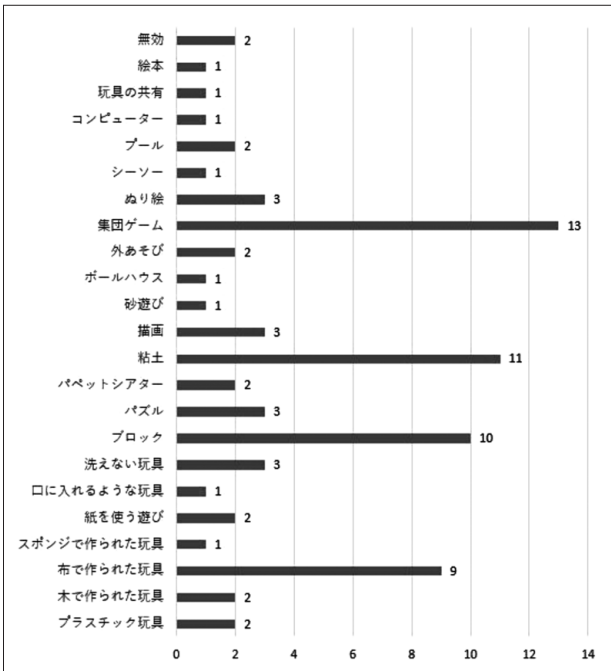


図 6. 減った活動

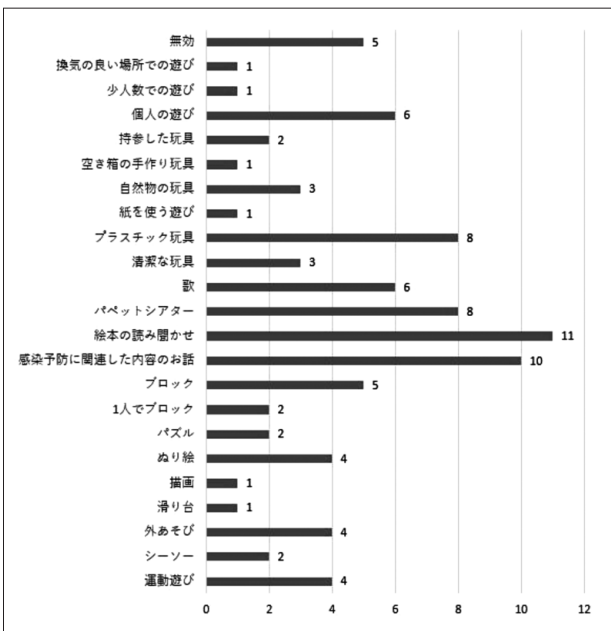


図 7. 増えた活動

4.3. 子どもの変化

事前聞き取りの際に多く挙がっていた図 8 の項目の課題に関し、複数選択式の回答を求めたところ、「手の消毒をするようになった」「マスクを着用するようになった」「距離を保つようになった」など感染予防に関する行動が保育園でとられていることがわかった。次に多く回答されたのは「文字や数字などの学んだことを忘れた」という学習面に対する項目であった。保育園が休園している間、家庭において適切な学習活動がされなかったと保育士たちは認識しており、保育園の再開後に、子どもたちはそれまでに学んだ文字や数

字を忘れていたと保育士たちは語っていた。

続いて「登園を拒むようになった」「コミュニケーション能力が低下した」という項目について、多くの回答者が当てはまると回答した。

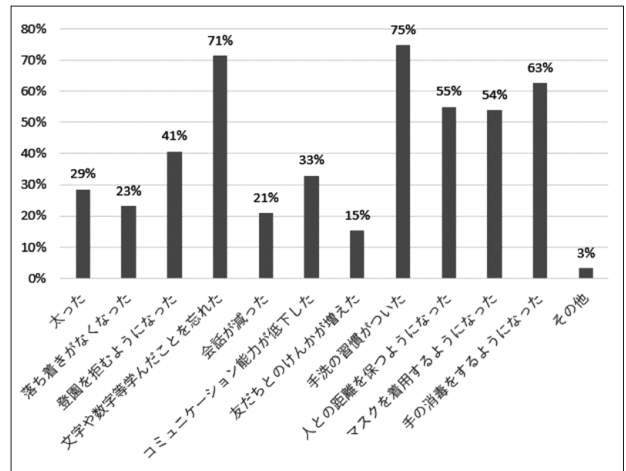


図 8. 子どもの変化

また、子どもの変化について問題であると思われることについて記述式で回答を求めた。その結果、社会性の低下や孤立に関する記述が 22 件、モバイルなどの電子機器の過度な使用に関する記述が 16 件、学習に関する記述が 10 件であった (図 9)。

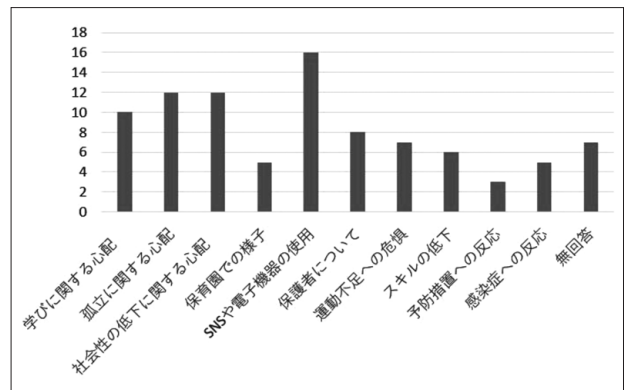


図 9. 子どもの変化に関する問題意識

UNICEF の調査でも感染拡大の影響により、社会とのつながりの減少や、癩癩を起したり、寝つきが悪くなったり等の変化があったと報告されている (UNICEF, 2020)。そうした子どもの変化からも、家庭と保育園・地域が連携した対応が今後さらに重要になることが予想される。

保育士たちは、保護者にモバイル端末を子どもに与えすぎないように呼び掛け、学習内容を一から教え直すなどの対応をとり、保育園で友だち同士と関わり合えるような活動を実施するといった工夫をしている。こうした活動を、感染症に留意しながら実践するために

も保育士が感染予防措置についてきちんとした知識を持っていることが重要であるといえる。

また、家で過ごすことに慣れてしまった子どもたちの登園意欲の低下が指摘されており、意欲を上げるための関りを工夫する保育士もいる。

5. 考察とまとめ

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、アンケートに回答した保育園の多くが一定期間の休園をしていた。保育士と子どもの数が減少したこと、保育園の活動には個人でできるものや限定された素材の玩具が使用されていることが分かった。これらの現状を踏まえて、以下のことが言える。

まず、再開した保育園では、多くの保育士が保育園を離れ、子どもの数も半数以上減っている。これは、全体の就園数の低下に直結していると言える。この就園数の低下が続けば、保育士たちが今回の休園後に感じた子どもたちの変化に関する問題がさらに深刻化することが予想される。子どもたちの家庭での過ごし方から、モバイル端末への依存、集団生活を通して社会性を育む機会の減少、エジプトで求められている就学準備ができないまま就学年齢を迎えてしまうなど、今後の子どもたちの成長に負の影響を与えることが危惧される。

二つ目は、休園中に使用されていなかった保育園を再開させるための環境整備に加え、感染予防のための新しい物品の購入・維持管理、消毒などの作業の増加に、少ない保育士で対応していることが懸念され、そうした状況から、保育士の働く環境の質が低下してしまう可能性がある。

三つ目は、上述のように子どもたちの活動や、使用できる玩具の制限などにより、子どもと子ども、子どもと保育士の関りを含めた保育の活動にも影響が出ている可能性がある。特にプロジェクトで導入している、子どもが主体的に活動する「遊びを通した学び」の機会が減少していると考えられ、これまで導入してきた砂場遊び、コーナー遊びなどの活動について、プロジェクトは現状に合わせたフォローアップをする必要があ

ると言える。

以上のように、今回の調査で、エジプトの多くの保育園において、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うロックダウンで、保育の質と量、両方の低下に影響を及ぼしていることが分かった。

現在もエジプトでは、保育士たちの工夫の中で日々、保育園が運営されているが、なかには、再開できずに閉園してしまう保育園もある。保育園の量と質を確保するためにも、上述の現状を踏まえた対策が必要であろう。

今後エジプトの保育現場で、新しい生活様式を取り入れながら、保育士や子どもたちが、笑顔で元気に過ごすことができるよう願う。

謝辞

今回の調査に協力してくださったエジプトの保育関係者の皆様、調査の実施にお力添えしてくださったJICA プロジェクトのナショナルスタッフの皆様を中心に感謝申し上げます。

参考文献

- Egypt Today (2021, April 9). JICA hands sanitary kits, basic equipment to Egyptian nurseries amid coronavirus. *Egypt Today*. Retrieved on October 22nd, 2021 from https://www.egypttoday.com/Article/3/100693/JICA-hands-sanitary-kits-basic-equipment-to-Egyptian-nurseries-amid?fbclid=IwAR1w8-uLqv8EhAFS_1pnq37S-6iJvwhUb8Mp3zUP6qkaptvLxuvV7rMYLH0
- UNICEF (2020). *Real time Monitoring (RTM)- Impact of COVID from rounds 1&2 DPG on Social Protection 30 September 2020*, Cairo: UNICEF.
- 国際協力機構 (JICA) (n.d.). 「就学前の教育と保育の質向上プロジェクト概要」『国際協力機構ホームページ』2021年10月15日アクセス <https://www.jica.go.jp/project/egypt/006/outline/index.html>